

せおと

岡崎市立常磐小学校

令和四年二月二十一日

強いメンタルに触れて

令和四年二月二十日、北京で行われていた冬季オリンピックが閉幕しました。今年度は、一年延期の夏季オリンピックが東京で開催されたため、夏冬のオリンピックが連続しました。今回、テレビで見ているすごいなと思ったことは、自分の持っている力をすべて出し切ることができるメンタルの強さです。

特に冬の競技には、採点種目が目立つせいでしょうか。オリンピックという大舞台で、難しい技に挑戦したり、最速スピードを出したりと驚くばかりです。例えば、スノーボードの平野歩夢選手や五種目も出場した高木美帆選手です。フィギュアスケートの坂本花織選手がノーミスの演技をしたのにも感動しました。そして、表彰台上がった時の満面の笑顔には癒されました。

また、カーリングという競技に注目が集まったことが、興味深かったです。予選リーグ敗退かと思われたインタビューの最中に決勝トーナメントに進むことが伝わり、信じられないといった表情の選手たちを映す画面に笑いました。そのメンバーの一人藤澤五月選手の手にかかれた言葉が選手たちの心を支えているのかもしれない。「ともに進もう 自分を信じよう 楽しもう」

自粛生活が続く日々の中で、選手ほどではないにしても、テレビの前で味わうドキドキ感や高揚感はかけがえのないものでした。ところで、オリンピック選手の素晴らしいパフォーマンスもさることながら、常磐小学校の子供たちの縄跳びパフォーマンスにも感心させられました。

先週は雪こそ降らなかったものの、空気の冷たい日が続きました。しかし、運動場での子供たちは、元気いっぱい。クラスごとに分かれ、短縄跳びに、8の字跳びに、チャレンジしていました。8の字跳びでは、三分間で跳べた記録

を取ります。六年生が、二クラスとも三百回を、四年五年生は二百回を越えていました。すごいのは四年生が、毎回二百回の回数を記録していたことです。三年生は、百五十回越えを記録し、二年生は、最後の最後に百回をクリアしました。また、初めて挑戦した一年生は、いきなり七十二回も飛び、たくましさを見せつけていました。中には、「校長先生、縄跳びの日が終わっても、練習をしているの」と聞く子がいるほど。もちろんです。オリンピック選手も言っていましたよ。「ここからが、スタートになれば」と。



今週は、今年度最後の全校レクがあるよ。縦割りチーム対抗しっぽ取りだよ。みんなのしっぽを異なる色の六年生ハインターが狙うよ。体調を崩さないように過ごしてね。